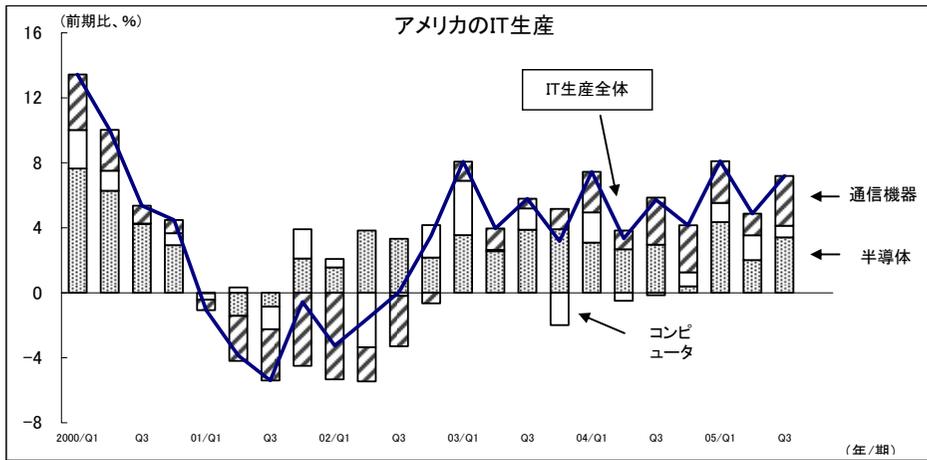


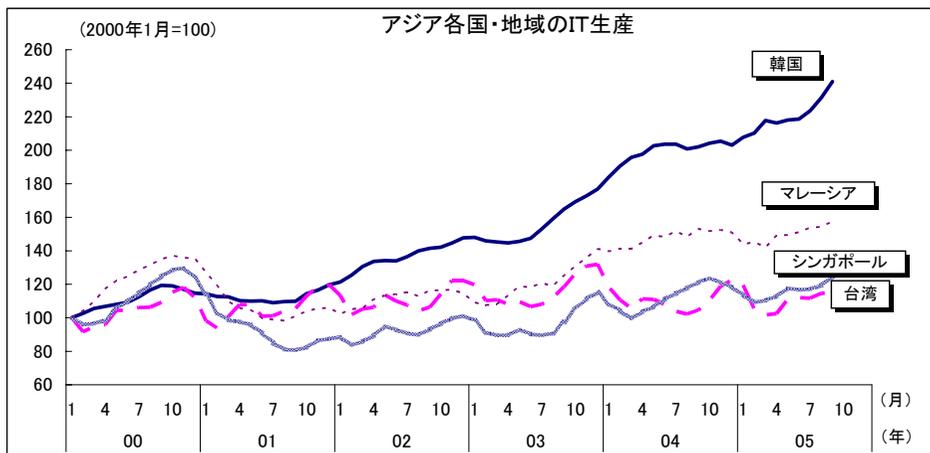
<最近の状況>

アメリカでは、2001年に減少した I T 生産は、02年後半から回復に転じ、03年以降は総じて堅調に推移している。内訳をみると、03年後半以降は、通信機器が下げ止まったことに加え、半導体の寄与が大きい。

アジアの I T 生産は2000年後半から01年にかけて減少したものの、その後は再び上昇基調が続いている。各国別にみると、台湾・シンガポールの伸びは緩やかなものにとどまっている一方で、韓国は好調に推移している。



(備考) アメリカ商務省

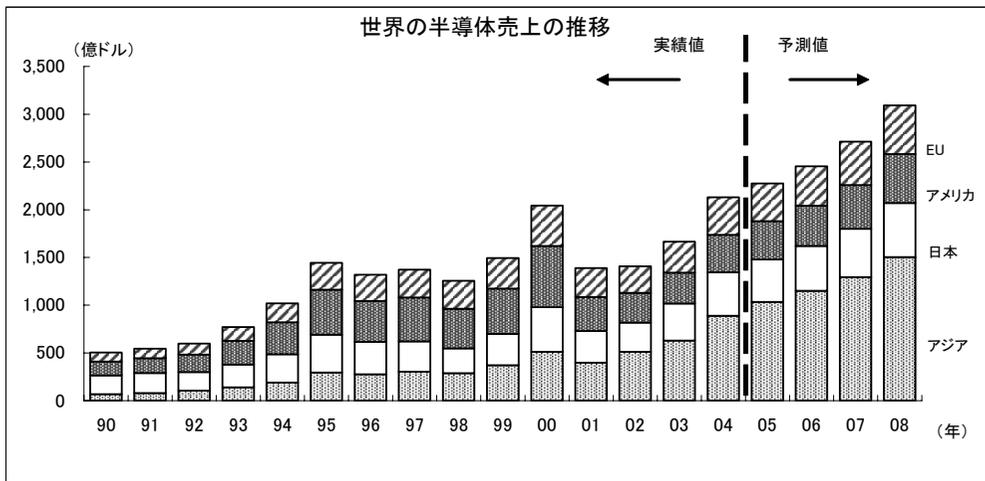


- (備考) 1. 各国・地域統計による。  
 2. I Tとは、韓国は電子製品、通信機器等の合計、台湾はコンピュータ、通信機器、ビデオ、装置・ラジオ等、シンガポールは電子製品、タイは電子・電気製品、マレーシアは電気機械・設備及び部品をさす。  
 3. 3か月移動平均。  
 4. 韓国は季調値。

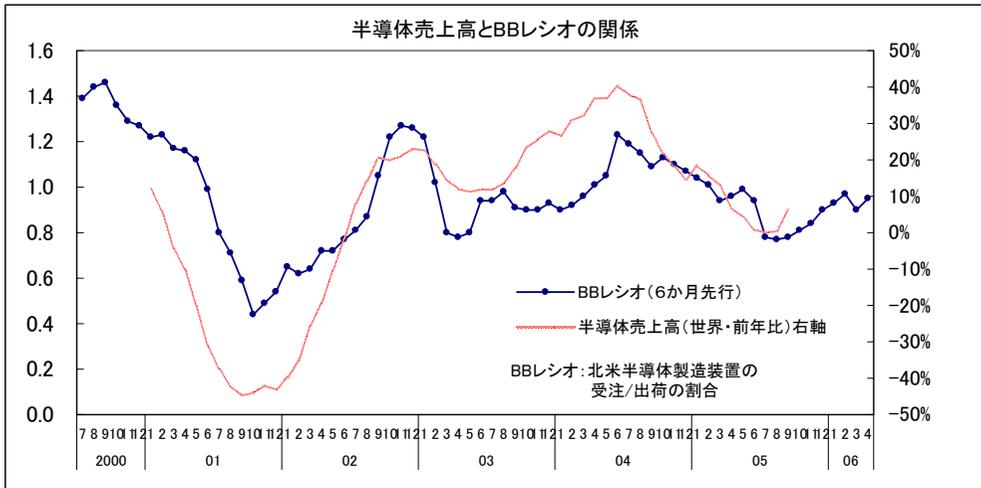
世界の半導体売上の推移をみると、I Tバブルの崩壊を受けて一時的に成長は鈍化したものの、調整は比較的短期にとどまり、03年からは回復に転じている。内訳を見るとアジア地域の伸びが顕著であり、04年には前年比+41.3%と世界全体の成長をけん引している。

### <今後の動向>

従来のP C、通信関連に加え、デジタル家電や携帯音楽プレイヤーなど、一般消費者向けのI T需要の裾野は広がっており、これらを中心にI T製品の需要は増加傾向にある。また、昨年後半からやや伸びが鈍化した半導体売上についても、先行指標といわれる北米半導体製造装置B Bレシオが上昇に転じ、05年年央以降、前年比ベースの売上も増加するなど、回復基調が確認されつつある。S I A（米半導体協会）によると、05年の半導体売上高は前年比6.8%、06年は同7.9%の成長が見込まれており、I T関連の設備投資や生産、輸出は06年にかけて増勢を保つとみられる。



(備考) S I A（米国半導体工業会）



(備考) S I A（米国半導体工業会）